

# 日本リアルオプション学会 (JAROS)

## 機関誌 投稿要項とテンプレート

高森 寛 (早稲田大学) 佐藤清和 (金沢大学)  
森平 爽一郎 (慶応大学) 伊藤 晴 (青山学院大学)

2020 年 4 月 7 日

### 概要

ここに 1000 字以内で概要を書いてください。

キーワード: ランダム環境、災害リスク、複合ポアソン過程、リスク鋭感的価値尺度、防災事業の価値、リアルオプションの価値

## 1 はじめに

日本リアルオプション学会は、論文誌と機関誌を発行している。学会誌は学術的な論文を掲載することを目標とし、掲載にあたっては査読を行うことを原則とする。これに対し、機関誌は、招待論文並びに投稿論文を掲載する。投稿論文は査読を原則とする。機関誌掲載の招待あるいは査読論文としては、これに限るわけではないが、例えば次のようなテーマを考えている。

1. 紹介および解説記事: 本学会からみて、隣接あるいは関連分野・領域の動向の紹介
2. 研究メモ: 研究上の新しいアイデア、異なるモデル間の関連性、研究成果のまとめ、リアルオプション研究のための数値解析・統計・計量経済学などの手法の解説、コンピュータシミュレーションやプログラム、学部や修士論文の要約
3. リアルオプションの他分野での応用の紹介: 例えば、会計学、知的財産企業の合併・買収 (MA) の応用など
4. 論説、書評、研究サーベイ:
5. オプションに関連した事例研究:
6. 研究室だより: 研究紹介、これまでの研究経緯など
7. 学部、修士論文: 優れたこれらの論文
8. その他:

この覚書は、執筆にあたっての注意事項と論文テンプレートを兼ねたものである。

### 1.1 機関誌原稿 1 ページの概要と文字数の上限

機関誌原稿は、このテンプレートをもとに書かれた LaTeX ファイルをコンパイルし、PDF ファイルとした

上、冊子体の発行ならびに Jstage と学会 HP の Web 上での公開を行う。

### 1.2 枚数制限

およそ 15 ページ以内。それを超えるものも受け付けるものとするが、その場合は編集委員会の承認をえるものとする。

### 1.3 機関誌の発行回数と投稿締切日

#### 1.3.1 機関誌原稿 1 ページの概要と文字数の上限

機関誌は、年 4 回の発行を原則とする。季刊誌を念頭に置いているので、4 月 (1 号)、7 月 (2 号)、10 月 (3 号)、1 月 (4 号) を刊行の区切りとする。

#### 1.3.2 投稿締切日

以上の様な刊行スケジュールを円滑に進めるため、刊行予定月の前月 15 日を投稿締切日とする。例えば、4 月刊行 (第 1 号) に掲載予定の論文は、3 月 15 日が締め切りとなる。それ以降に投稿された論文は次号になる場合がある。特に査読を希望する論文は締め切りを厳守されたい。

#### 1.3.3 増刊号と特集号

掲載希望論文が多くなる場合は、年末から年始にかけて増刊号を発行する場合がある。また、特別なテーマに基づき臨時の増刊号を発行することもある。その場合は、事前に論文掲載を呼びかける案内 (Call for Paper) を、定期刊行号あるいは学会ホームページで周知することとする。

#### 1.3.4 執筆に用いる言語

機関誌では日本語あるいは英語で執筆された論文を受理する。

#### 1.3.5 刊行形態

機関誌は紙媒体での公開と Web 上での公開の二本立てとする。Web 上での公開は現在のところは、学会ホームページを通じてのみであるが、近い将来には、J-Stage で

の公開を目指している。学会員には紙媒体での配布をおこなう。

#### 1.3.6 冊子体と Web での公開の違いについての注意

冊子体での機関誌は「白黒」印刷であるのに対し、Web 上での公開は、PDF 原稿であるため、文字、注番号、図表、ハイパーリンクなどは色付きが可能であることに注意

#### 1.3.7 査読論文

機関誌における査読希望論文は、実務上の有用性、提供情報の意義と充実度、理解容易度など、論文誌とは、別の視点からの査読がなされる。「査読を希望する論文」として投稿が可能になる。短い期間での採否の決定、あるいは修正の依頼をすることを目指す。査読を希望する論文は、概ねこの機関誌で 10 ページ程度とする。それ以上になる場合には分割掲載となる場合がある。査読付きの論文はそのことを機関誌目次と掲載ページの最初に告知する。

#### 1.3.8 参考文献

参考文献の表記方法は、この執筆規定の最後の「参考文献」欄に載せられたように、シカゴスタイルに準拠するものとする。

#### 1.3.9 数式

複雑な数式展開が必要な場合は、数学付録としてまとめることが望ましい。また 10 ページの頁制限以上の原稿になる場合には、オンライン付録」としてまとめることも望ましい。論文に関連をしたプログラムやデータなどは JStage 搭載にあたってオンライン付録」ととすることができる。希望する著者は編集部当アてそれらの資料を送付すること。

#### 1.3.10 図表

機関誌では、図と表を分けて番号とその説明 (Caption) をつける。図の番号と説明は図の下部に、表については上部につけることとする。たとえば図の場合、図 1 の通りである。

図のソースファイルを投稿時に LaTeX ソースファイルとともにかならず送付すること。

## 2 投稿資格

講演要旨等の招待記事・招待論文以外については、投稿された原稿の著者のすくなくとも 1 名については、「原則」本学会会員であるが、広く金融資産のみならず、実物資産を対象にするオプションに関する論文の投稿を募集する。

## 3 投稿料

機関誌の投稿にあたっては、当面、投稿料を徴収しないこととする。

## 4 著作権

本誌掲載のすべての記事および論文は、その著作権が本学会に帰属する。但し学会は論文の書籍での発行、他の雑誌への掲載などは原則みとめるものとする。

## 5 図表等の引用

他者の図版等を使用する場合は著作権者の了解を得て、出典を明示すること。

## 6 原稿の執筆要項、テンプレートおよび投稿フォーム

論文およびその他の投稿は学会ホームページ (<http://www.realopn.jp/>) の『機関誌への投稿のご案内』の欄から行おこなう。そこに「執筆要項兼原稿テンプレート」が添付されている。また、投稿原稿は、そこにある「原稿投稿フォーム」からおこなうこと。

## 7 機関誌編集委員会への連絡

機関誌編集委員会宛に連絡がある場合には、次のメールアドレス (kikanshi@realoption) 宛にメールを送付してください。

## 8 J-STAGE 搭載にあたり必要な和文抄録とキーワード

機関誌発行後 3 ヶ月を経過すると採択論文は J-STAGE に搭載される。この場合、4,000 字以内の和文抄録と 10 個以内のキーワードが必要になる。和文抄録は英文抄録の翻訳であっても、それと異なるものであっても構わない。キーワードは原則、論文 1 ページ目で示したキーワードを使用するが、全体で 10 個以内であれば追加することができる。和文抄録とキーワードを別紙 A4 で 1 枚以内で提出すること。

## 参考文献

- [1] T. Hirose, H. Miyauchi, and T. Misawa (2012), 'Project Value Assessment of Thermal Power Plant Based on RNPV Probit Model Considering Real Options,' *J. Real options and Strategy*, Vol.5, 1-18.

- [2] 宮原 孝夫 (2006), 「期待効用理論に基づくプロジェクトの価値評価法」、*Discussion Papers in Economics, Nagoya City University*, No.446. 1-21.

付録

付録 A.1 数学付録

付録 A.2 制度の説明